

岐阜県と合同でコンテナ苗を試験植栽

〔東濃署〕 4 月 23 日、東濃森林管理署管内の湯舟沢国有林（岐阜県中津川市）において、岐阜県（本庁森林整備課、恵那農林事務所、森林研究所）、中部森林管理局森林技術・支援センター、東濃署が合同でコンテナ苗の試験植栽を行いました。コンテナ苗は、従来の苗（裸苗）に比べて植栽の時期を柔軟に選ぶことができる、大きな植付穴を掘らずに済み作業を軽減できるなどの特徴があり、森林の若返りを進めていく上で普及が期待されていますが、岐阜県内では緒についたばかりのため、今後の取組に役立てようと関係者が協力し、国有林において試験を行うこととしたものです。

当日は、県森林研究所が用意した、根鉢の大きさや培地等の組合せを変えて育てたヒノキのコンテナ苗六百本を、茂木同研究所主任専門研究員や西田技術・支援センター企画官らの指導で、約 0.27 ㍏の試験地に植えていきました。

東濃署からは業務グループのほか治山グループ、森林官、森林技術員ら 23 名が参加し、各機関の参加者とともに、コンテナ苗専用のスぺードやディブルと呼ばれる植付道具、刃の幅や角度を工夫した改良唐鍬などを手に取って、それぞれの使い勝手確かめながら作業を行いました。

植付を終えた職員からは、「植付道具を地面に突き刺してあけた穴にコンテナ苗を差し込み軽く整地するだけでよく、あっけないほど作業が簡単だ。」、「試験地（緩斜面）ではディブルが扱いやすかった。急斜面で植えるなら改良唐鍬が打ち込みやすく、他の道具より体重移動も少ないので威力を発揮するのではないか。」、「根鉢が嵩張るため一度に運べる数が少ないのが難点。」といった声が聞かれました。

また、隣接する伐採跡地では、造林を請け負った事業体の協力を得て、コンテナ苗及び裸苗の作業効率を比較・検証するために功程調査を行いました。

当署では、今年度、ヒノキのコンテナ苗 4 万本の植栽（昨年度は 9 千本）を計画しており、今回のような試験植栽も含め、地域でのコンテナ苗の普及・定着を目指して、今後更に取組を進めていきたいと考えています。



試験地に苗を植える参加者